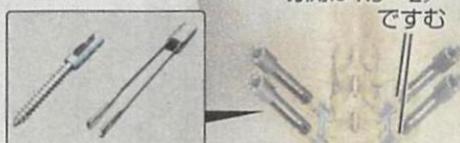


骨転移

ミストによる手術



筋肉を傷つけないように専用の金属器具を背中に差し入れる(イラスト)。器具に沿ってネジを入れて固定



3年前に発症した胃がんが転移したものだった。昨年秋から右脚にしびれが出そうとしても出なかつた。

慶應大病院では、胃がんの手術をした消化器外科を受診したが、すぐに整形外科助教の日方智宏さんが呼ばれた。画像診断の結果から、時間をおかず手術でがんを取り除かないと、下半身のまひと排尿障害が残る心配があつたからだ。

痛みでいすに座れず、移

神奈川県の会社員C夫さんは(48)は今年1月初め、東京都新宿区の慶應大病院に緊急入院した。背骨の下にある仙骨にできたがんが骨の中を通る太い神経を圧迫し、下半身がまひした。尿を出そうとしても出なかつた。

3年前に発症した胃がんが転移したものだった。昨年秋から右脚にしびれが出そうとしても出なかつた。

慶應大病院では、胃がんの手術をした消化器外科を受診したが、すぐに整形外科助教の日方智宏さんが呼ばれた。画像診断の結果から、時間をおかず手術でがんを取り除かないと、下半身のまひと排尿障害が残る心配があつたからだ。

痛みでいすに座れず、移動用の簡易ベッドに寝た状況になり、近くの整形外科病院を受診。CT(コンピューター断層撮影)で調べると、がんは数枚の大きさになっていた。

慶應大病院では、胃がんの手術をした消化器外科を受診したが、すぐに整形外科助教の日方智宏さんが呼ばれた。画像診断の結果から、時間をおかず手術でがんを取り除かないと、下半身のまひと排尿障害が残る心配があつたからだ。

痛みでいすに座れず、移

ネジ挿入 体の負担軽減

後、弱くなつた仙骨に無理な力がかからないように、3個の腰椎と骨盤の左右に1本ずつネジを入れ、それらをつないで動かないようとした。C夫さんは「手術後の痛みはあまり感じず、早く動けるようになった」と話す。

ミストによる手術は腰椎症など、がん以外の治療で多く行われている。骨転移の治療でも、手術後早い時期に、抗がん剤や放射線の治療を始められる長所がある。保険が利くが、骨転移に対して使つ病院は数施設にまだとどまっている。

C夫さんは手術の5日後に歩行のリハビリを、2週後に放射線治療を始めることができ、2月に退院した。

整形外科講師の森岡秀夫さんは「手術後の回復が早いので、骨転移の患者が寝たきりになるのを防ぐ」とができる」と期待する。

ミスト手術で固定されたC夫さんの腰椎と骨盤。従来の手術に比べ、回復が早い

という(慶應大提供)

日方さんは、C夫さんのがんを丁寧に取り除いた。ミスト手術で固定されたC夫さんの腰椎と骨盤。従来の手術に比べ、回復が早い